

TOKIO

進化びと

東京・日本橋が活気を取り戻しつつある。高島屋、三越の改装。大型商業施設、コレド日本橋のオープン。十二月には高級ホテルも開業する。さらに仕掛けがもう一つ。『日本橋美人』プランである。

今秋、日本橋では女性向けのイベントが目白押しだ。地元レストランが美容にも配慮した料理を提供、漢方の専門家の講演会や地域限定パンの発売も予定されている。仕掛け人の山田晃子・日本橋OLクラブ部会長は「栄養と教養を通じて、女性が内面から美しくなれる手助けができれば」と語る。

街づくりにのめり込む

日本橋OLクラブ部会長 山田 晃子さん

女性の視点、日本橋に新風

■ 地元企業から人材集め

手弁当でイベントや商品開発、評判に



「日本橋が元気になるには、女性の声を地域に生かさない」と話す山田さん

きっかけは危機感だった。セの理由が痛いほど実感で、SNSのある商業施設、歴史と伝統を誇る老舗の味と人。消費をリードするの女性。日本橋が元情。そのいずれもが存在し、気になるには、彼女らの声。好きな街だと思ふのだが、を地域に生かさない」と。アフター5になるとひっそり。一九九九年、地場企業経営者と静まり返ってしまうか者らによる「日本橋地域ルネッサンス100年委員

活動してきた山田には、そ。二十代から青年会議所で、ほとんどボランティア組。会」で山田は訴えた。活動してきた山田には、そ。二十代から青年会議所で、ほとんどボランティア組。会」で山田は訴えた。活動してきた山田には、そ。二十代から青年会議所で、ほとんどボランティア組。会」で山田は訴えた。

山田が活動の足場を広げたのが〇二年。NPO「東京中央ネット」を立ち上げ、インターネット映像情報などを配信、日本橋かいわいに住む日本舞踊の地元や企業の社長らが「今月の顔」として登場した。

（奈）
敬称略

やまだ・あきこ 東京都杉並区生まれ。女子美術大学卒業。商業デザイン・企画の制作会社「ヤマダクリエイティブ」設立。二十六歳で東京青年会議所入り。一九九九年に同会議所中央区委員長。日本橋OLクラブ部会長、NPO東京中央ネット専務理事。

はビジネスになる」と企業側に気づかせたことでもある。OLクラブの発案で栄太楼総本舗のあんや山本海苔店のノリを使ったパンが二〇〇三年に登場。今夏は高島屋の販売するゆかたが付く宿泊プランを地元ホテルが売り出し、話題となった。丸の内や大手町などOLが集う街は多いが、企業が地域おこしに無償で協力するまでに組織化されているのが日本橋の特長だ。

山田が活動の足場を広げたのが〇二年。NPO「東京中央ネット」を立ち上げ、インターネット映像情報などを配信、日本橋かいわいに住む日本舞踊の地元や企業の社長らが「今月の顔」として登場した。すべてはボランティア。会社経営をしながらの参加だが「人間の幅をつくるのに必要な汗」と信じる。「仕事ばかりに追われる人と、社会貢献を続ける人。長い間に大きな開きが出る」。無償の行為だからこそ、制作費に悩む散策マップへの広告申し出など支援が相次ぐ。「これも日本橋の底力じゃないかな」

東京